

竹屋陶板浴社長
京子のつぶやき
コロナ禍の中で

No.94

新しい年を迎えるとなると何となく心がほんわかしていましたが、今年は何気なく、いつの間にか年が変わってしまったような気がします。昨年は何をして過ごしたかもあまり記憶にないのは私だけでしょうか。

社会全体がコロナ騒動。それでも地球は周り年は重ねていきます。年齢が重なると固有名詞が出なかったり、人の名前が思い出せなかったりと、落ち込んだりもしますが、いやなことだけではなさそうな気がします。今まで気づかなかったことに気づいたり、ゆったりとした時間の流れを感じたりすることが多いのです。思わず心の中で「これって幸せなこと」とほっこりしている自分がいます。それがなんと不思議なように毎日幸せだなと思うことが起こるのです。自分で「あら、これって今までと違う心の動きの変化なのかな」なんてだろうと考えていましたが、きっとコロナ騒動で今まで見えなかった価値観が時間の余裕と重なりみえてきたような気がします。どんなことが起きようが悪いことだけではない。必要以上に恐れない、振り回されないなど、これまでの生活スタイルに自信を持ち、自分の免疫力を信じ、自分らしく生きようと思えます。好奇心を持ち、新しい発見を見逃さない自分でいると人生楽しく暮らせるもんだと気づかせてくれます。いくら年齢を重ねても気持ちは若い時と一緒にんだなと思えます。普段は車で通過していた道を歩くだけで新たな発見「こんな横道があったのだ、こんなお店があったのだ」と、これまでせかせかしていた生活からゆったりできる心の余裕、これはコロナだけではなく年齢を重ねてきた私への大きなご褒美かもしれないと自分で納得しています。

嬉しいことはお客様が沢山運んで来てくれます。先日もたんぽぽ交流会（がん交流会）で血液検査の見方に参加された方が、その後の検査結果を見て「私陶板浴を利用し三ヶ月で免疫力の数値リンパ球が上がっているんです、腫瘍も小さくなっていると言われました」と嬉しそうに話してくれました。血液検査を見て自分の身体のことを自分で解るようになるって素敵なことですね。ある方は「温かい陶板浴に入った途端至福の幸せを感じるんです」と話してくれました。奴久妻先生が話してくれていましたが、体を温めると幸せホルモンが分泌され免疫力がぐんと上がるようです。陶板浴の玄関を屈託のない笑みを浮かべて来店してくれた方、数年前はなんとなく憂鬱そうな表情でしたので特に印象的なのですが、その後どうですか（がん）と聞くと「ここで沢山のことを学んだので大丈夫、もう元気です」とその笑顔が私の身体に入り込み「幸せだな」と細胞の喜ぶ声が聞こえてくるようです。嬉しい時は嬉しい、悲しい時は悲しいと伝えあえることができる環境がいかに大切か。人間にとっての三密は必要不可欠のものです。コロナなんかで忘れてなるものですか。